

No.1	事業名	教育文化センター研究研修事業	担当課	教育指導課
<p><b>【事業概要】</b></p> <p>(1) 教科、領域等について調査研究し、その研究成果を広く学校現場へ提示する。                  (2) 研修講座及び授業研究セミナー等を企画・実施する。                  (3) 教育情報の収集整理を的確に行い、広く教育情報等の提供を図る。</p>				
<p><b>【目的】</b></p> <p>本市の教育及びこれに係わる文化の振興に関する専門的、技術的事項の調査研究並びに教育関係職員の研修を行い、教育関係職員の力量や指導力の向上を図る。</p>				
<p><b>【平成22年度実施内容】</b></p> <p>(1) 教育研究事業                  研究部会 9部会開催 研究員51名                  (教育課題調査、国語科、社会科、算数・数学科、理科、外国語活動・英語科、環境教育、情報教育、教育実践臨床)                  研究紀要 3部会で発刊(教育課題調査、算数・数学科、教育実践臨床)</p> <p>(2) 教育研修事業                  研修講座 72講座開催 延べ2,150名参加                  (一般研修22講座 延べ823名参加、専門研修50講座 延べ1,327名参加)                  また、専門研修のうち、経験の浅い教職員を対象にした実践研修23講座 延べ647名参加</p> <p>(3) 教育情報関係事業                  教育情報誌「ふじさわ教育」第153・154・155号 発刊                  教育文化講演会開催 8月24日(火) 湘南台市民シアター                  「私の異文化体験 ～外から見た日本～」歌手・女優 西田ひかる氏                  527名参加                  第41回藤沢市総合かがく展開催 10月20日(水)～25日(月)                  湘南台文化センター こども館及びギャラリー                  参加校56校 出品者数1,391名 出品作品数1,253点 来場者数7,383名                  研究報告会開催 3月28日(月)                  教育文化センター 大会議室 68名参加</p>				
<p><b>【効果・成果】</b></p> <p>(1) 研究部会の研究員やOBが、研究部会や研修講座の講師として活躍することにより、自発的、主体的な研究体制の構築を促進することができた。                  (2) 経験の浅い教職員を対象にした実践研修講座の回数を増やすことにより、若手の教職員の参加率が増え、授業実践への自信を持たせることができた。                  (3) 藤沢の自然シリーズを授業のテキストとして活用することができ、刊行物の効果的活用を図ることができた。                  (4) 藤沢市内教育関係職員の力量を高めることにより、地域に根ざした藤沢の教育レベルの向上が図られた。                  (5) 第10回「学習意識調査」報告書を発刊し、45年間の藤沢市内の中学3年生の学習意識の変化や現在の傾向について発信することができた。</p>				
<p><b>【課題・問題点(内部評価)】</b></p> <p>(1) 「学習意識調査」報告書の学校での周知と活用                  (2) 研修講座に参加した受講者が更に創造的な授業実践に向けてモチベーションを高めることができるようにする工夫                  (3) 講座希望者が参加しやすい研修日時の設定</p>				

### 【課題解決の具体的方法】

- (1) 「学習意識調査」報告書の活用場面を想定した資料の提示方法の検討を行う。
- (2) 校長会・教頭会での事業の広報活動の充実を図る。
- (3) ネットワークの拠点としての教育文化センターの活用に向けた広報を行う。
- (4) 放課後に参加できる研修講座の日時の設定を図る。

### ■外部評価員からいただいた主なご意見

#### 1. 事業が目的を実現するための内容となっているか

- 本事業の目的は「学校教育関係職員の力量や指導力の向上を図る」ことにあり、そのために①教科、領域等について調査研究し、教育情報の提供を行い、②研修講座及び授業研究セミナー等を企画・実施することは、概ね適切な内容と思われる。
- 先生方が自ら学び、自ら考える力を育成する、言わば自己教育力に資するような研修内容になっている。

#### 2. 事業の効果・成果が適切なものか

- 事業目的を達成するうえで、教職員による創意工夫のある授業づくりや自律的で信頼される学校づくりをいかに支援することができるかが重要であろうが、①自主的、主体的な研究体制の構築や、②若手職員をはじめとする教職員への支援、③教育研究上も評価の高い「学習意識調査」の実施と活用などを通じて、成果を上げていると思われる。
- 特に年3回発行される「ふじさわ教育」は藤沢市の教職員の文化（授業、生徒指導、ライフスタイル等）を若い教師に伝承するものになっている。

#### 3. 課題・問題点の捉え方は適切か

- 研修のねらいが、教職員の自主的、主体的な研究姿勢や体制づくりにおかれているので、参加者の学習、研究意欲の向上につながっている。
- 概ね、問題、課題の捉え方は適切と思われるが、教職員の資質や指導力の向上は、この事業単独で評価できるものではなく、校内研修や自主的研修の奨励など総合的な視点から検討が必要であろう。
- 参加者が参加しやすい日程になるよう配慮してほしい。

#### 4. 課題解決の具体的方法は適切か

- 研修参加者のアンケートを分析し、より一層、参加者の疑問、問題意識と合致する内容にしてほしい。
- 研究部会が発表のための資料づくりにならないよう、日頃の授業のための研究成果発表の場としてほしい。

#### 5. 総合的な感想（アドバイス）

- 信頼される学校づくりを進めていく上で、教職員がどのような研修を行っているのかについて、幅広く保護者、地域住民への広報活動を活発に行っていく必要があると思われる。
- 45年間続いている「学習意識調査」は貴重な研究であり、今後も是非、続けてほしい。